

はじめに

『学ぶと教えるの現象学研究 十九』をお届けします。

2020年は、新型コロナウイルス感染症COVID-19の世界的流行という未曾有の危機が、人類を震撼させた1年でした。2021年1月元日現在で、全世界の感染者は8350万人、死亡者は182万人、日本では23.6万人が感染、3,292人が亡くなっています。感染は依然拡大傾向にあり、事態収束の道筋はまったく見えません。

この新手のウイルスは、社会、経済、政治、教育、文化、生活様式など、ありとあらゆる次元に大打撃を与え、それらに変貌を強いています。大学の授業一つとっても、対面からオンラインへと変貌を余儀なくされました。今回のパンデミック以前には、1大学規模で、それどころか全国、いや世界規模で、大学のほぼすべての授業が、瞬く間にオンライン化されるなど、夢にも思いませんでした。

全世界を変えるウイルスの危機に瀕して、本誌も定期刊行が危ぶまれました。しかし、このたび、5本の論考を所収し、定期刊行が実現しました。本誌初の執筆者をお迎えすることもできました。

2017年に発表した拙稿に、「現象学運動」は、「個々の人間の危機、そして人類の危機を原動力にしている」と記しましたが、このパンデミック下で改めて、この見立てが間違いでなかったことを確信しています。今一つ付け加えるとすれば、現象学運動は、「わたしたちの、止みがたい学ぶ喜びを原動力にしている」と言いたいところです。「教育の現象学運動」もまた、危機と学ぶ喜びとを原動力として、今後も進展し続けることでしょう。本誌がその運動の一翼となることを願っています。

本誌編集にあたり、今回も新潟大学の福田学准教授に幹事を務めていただきました。この場をお借りして、深く感謝いたします。

公式Webサイトを開設しました。以下のURLからアクセスできます。

http://philo-pheno-edu.com/learning_teaching/

15号以降で、執筆者から電子化公開許諾を得た全論文が、無料ダウンロードできます。1号～13号までの総目次も、閲覧できます。

現在は論文の公開という必要最小限の機能しかありませんが、今後は「教育の現象学」の情報発信、交流の場としての役割も担っていく計画です。ぜひ公式Webサイトをご閲覧ください。

バックナンバーにつきましては、当面、本誌所蔵図書館をご利用くださいますようお願いいたします。これまでは編集者である田端までご連絡いただいた方に、無料で郵送させていただいてきました。しかし、バックナンバーの所蔵もとだった宮城教育大学5号館が2020年10月より全面改修工事となり、田端研究室の仮移転先にも余裕スペースがなく、バックナンバー在庫は、教職員共有の倉庫に保管することにしました。2021年秋には改修工事が終わり、倉庫保管のバックナンバーも田端の手元に戻る予定です。その後はまた、従来通りの対応とさせていただきます。

次号は2023年2月刊行予定です。

2021（令和3）年1月
宮城教育大学 田端 健人
〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地
Tel./Fax. : 022-214-3522
E-mail : tabata-t@staff.miyakyo-u.ac.jp